



日時 平成29年11月14日(火) 13:30~16:30

テーマ 通常の学級に活かせる通級指導と連携事例②～実践後の成果と課題の検討～

講師 びわこ学院大学 教授 藤井 茂樹 氏

SSC 公開講座 202 「通常の学級に活かせる通級指導と連携事例②～実践後の成果と課題の検討～」の講座を京都府スーパーサポートセンターで開催しました。「通常の学級に活かせる通級指導と連携事例シリーズ」の2回目です。びわこ学院大学教授の藤井茂樹先生の御講演の講座で、小中等学校の通級指導教室担当の先生を中心に41名の先生方が受講しました。



まず、前半に8つのグループに分かれて演習を行いました。シリーズ1回目に「今行っている連携の課題と、その課題を解決するために考えられる取組について考え、次回までにできる実践の計画」を立てました。その計画を学校に持ち帰り、実践し、今回の演習で振り返りを行いました。前回参加者から、子どもの変化に視点を当てて、成果と課題を報告してもらいました。それを基に更なる連携を進めるために必要なことの見直しを行いました。「少しでも時間を工面して話をする時間を取る」「メールやメモを活用する」「お互いの授業参観をする」等連携に向けた前向きな意見の交流ができました。

後半は、藤井先生から「学びに向かう力とことば・学齢期における支援—通級指導教室の役割—」の演題で御講演頂きました。まず初めに通級指導教室担当の基礎定数化や制度について知っておくべきことを分かりやすく御説明いただきました。現状から考えると各学校に通級指導教室が設置されることが支援を進めるためには必要であることや、連携を進めることと各校に設置されていることは関係しているともおっしゃられていました。

学びに向かう力とことばについて、関係を日常生活上のコミュニケーションに使う「生活言語」と学習に必要な「学習言語」との関係からお話いただきました。これまでは、「話しことば」と「書きことば」の枠組で考えられていたが、新しい枠組では、乳幼児期から発達してきた一次的ことば（話しことばを媒体）の上に学齢期からの二次的ことば（話しことばと書きことばを媒体）の3つの層を築き、相互に影響し合っていると説明いただきました。二次的話しことばの成立が書きことばを可能にさせたり、書きことばが二次的話しことばを自覚させ、二次的ことばの発達が一次的ことばをより広げていくことになるという関係性や、学習場面での必要な力について具体的に教えていただきました。

次に幼児期におけることばを育てる関わりを「話す」力・「聴く」力・「書く」力・「考える」力の育ちからどう考えるのか、保幼から小学校への移行は、遊びを通して学ぶ乳幼児の教育活動から教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行しなければならない、そのためには、「一次的ことばと二次的ことば」を繋げることを考えることが必要であること、保幼小連携の具体的な取組を実際の経験に基づいてお話いただきました。

最後に「通級指導教室は、多様な学びの場の一つとして個々の教育的ニーズに応じた指導を提供している。通常の学級に在籍し、通常の学級での学習におおむね参加しているその子どもに合わせた特別の教育課程による指導を展開している通級指導教室は、インクルーシブ教育システムの構築に向けて重要な位置づけである。個々の子どもの実態を把握し、それを踏まえた指導や対応策を提供し、子どもを中心に据えて関係機関との連携を行っている。その活動は、地域の状況によって異なるが、言語障害教育の専門性を生かした活動は、インクルーシブ教育システムの構築に向け重要な役割をはたしていると考えられる」とまとめられました。



<参加者アンケートより感想> (一部抜粋)

- ・通級指導教室の制度上の課題、学校現場の実態、連携の難しさ、今後の方向性等勉強になった。
- ・通級指導教室の現場に沿った話だった。日頃の大変さをわかっていただき、うれしかった。元気をいただいた。
- ・通級指導教室の存在意義を改めて感じた。

平成30年1月20日(土)に京都市北文化会館にて府民講座「私の選択～自立・就労とは～」を開催します。詳細・申込はSSCホームページを御覧ください。

